

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成27年1月30日
【事業年度】	第19期（自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日）
【会社名】	株式会社くらコーポレーション
【英訳名】	KURA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 邦彦
【本店の所在の場所】	堺市中区深阪1丁2番2号 （平成26年11月4日をもって旧所在地である堺市中区深阪1035番地2より上記所在地へ住居表示変更されております。 また、同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	大阪府大阪狭山市今熊1丁目550番地の4
【電話番号】	072（368）6211
【事務連絡者氏名】	取締役経理本部長 津田 京一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第15期	第16期	第17期	第18期	第19期
決算年月		平成22年10月	平成23年10月	平成24年10月	平成25年10月	平成26年10月
売上高	(千円)	-	-	-	88,144,847	96,938,352
経常利益	(千円)	-	-	-	4,452,258	5,175,391
当期純利益	(千円)	-	-	-	2,502,539	3,040,764
包括利益	(千円)	-	-	-	2,546,958	3,074,883
純資産額	(千円)	-	-	-	21,820,174	22,293,426
総資産額	(千円)	-	-	-	36,479,029	38,139,711
1株当たり純資産額	(円)	-	-	-	1,054.13	1,129.18
1株当たり当期純利益金額	(円)	-	-	-	120.90	146.99
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	-	-	-	59.8	58.5
自己資本利益率	(%)	-	-	-	12.1	13.8
株価収益率	(倍)	-	-	-	13.2	20.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	6,178,875	8,443,977
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	3,429,974	2,594,959
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	2,081,557	4,592,371
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	-	-	-	5,846,862	7,168,447
従業員数	(人)	-	-	-	1,030	1,097
[外、平均臨時雇用者数]		[-]	[-]	[-]	[9,395]	[10,100]

(注) 1. 第18期連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期
決算年月	平成22年10月	平成23年10月	平成24年10月	平成25年10月	平成26年10月
売上高 (千円)	70,778,257	74,430,340	78,971,112	87,171,703	95,635,750
経常利益 (千円)	5,023,631	3,563,440	4,070,536	4,463,715	5,135,158
当期純利益 (千円)	2,843,509	1,510,186	2,067,892	2,571,456	2,994,872
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	2,005,329	2,005,329	2,005,329	2,005,329	2,005,329
発行済株式総数 (株)	20,699,800	20,699,800	20,699,800	20,699,800	20,699,800
純資産額 (千円)	16,627,461	17,889,250	19,708,716	22,031,618	22,424,859
総資産額 (千円)	27,566,371	30,630,876	33,344,613	36,602,378	38,185,353
1株当たり純資産額 (円)	803.27	864.22	952.12	1,064.35	1,135.83
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	12.00 (-)	12.00 (-)	12.00 (-)	12.00 (-)	12.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	137.37	72.96	99.90	124.23	144.77
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.3	58.4	59.1	60.2	58.7
自己資本利益率 (%)	18.5	8.8	11.0	12.3	13.5
株価収益率 (倍)	9.3	13.7	11.1	12.8	20.8
配当性向 (%)	8.7	16.4	12.0	9.7	8.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	5,178,679	3,751,160	5,982,999	-	-
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,688,071	3,649,578	3,428,150	-	-
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	874,954	227,422	1,721,978	-	-
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	4,270,739	4,144,898	4,972,339	-	-
従業員数 (人)	978	1,047	979	1,006	1,070
[外、平均臨時雇用者数]	[6,981]	[8,076]	[8,392]	[9,264]	[9,951]

(注) 1. 第18期より連結財務諸表を作成しているため、持分法を適用した場合の投資利益、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー、現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

4. 当社には関連会社はありませんので、第17期までについては持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。

5. 平成22年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき200株の割合で株式を分割しております。

なお、第15期の1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、株式分割が期首に行われたものとして算出しております。

2【沿革】

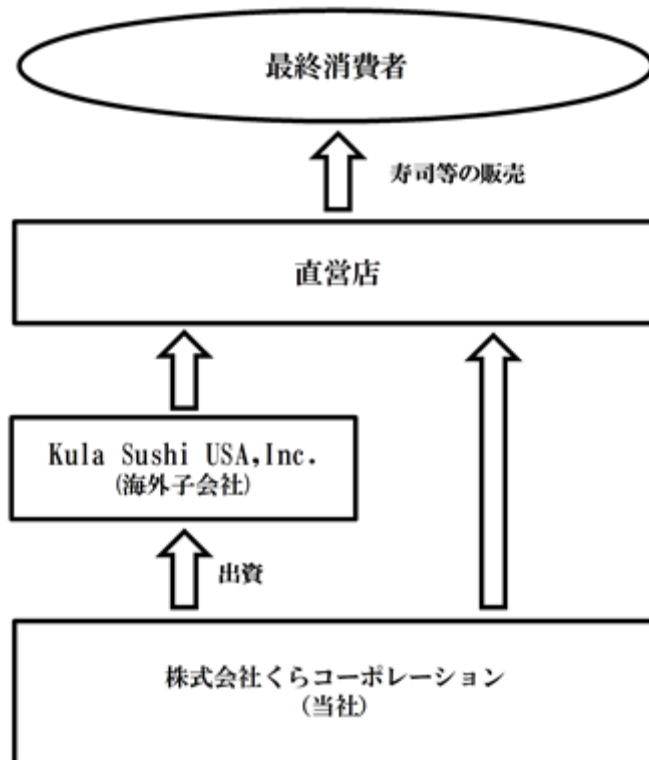
- 平成7年11月 回転すしの製造・販売を目的として、資本金10,000千円で大阪府堺市（現 堺市中区）に株式会社くらコーポレーションを設立。従来から存続していた回転すしの製造・販売を事業目的とする株式会社くら寿司（大阪府堺市（現 堺市中区）に所在）と、同じく株式会社くら寿司（大阪府大阪狭山市に所在）より、設立と同時に両社の直営店13店の営業権を取得。
なお、大阪府堺市（現 堺市中区）に所在の株式会社くら寿司は平成7年8月31日付で解散し、平成11年12月24日に清算終了しております。また、大阪府大阪狭山市に所在の株式会社くら寿司（平成12年10月24日付で株式会社ウォルナットコーポレーションに商号変更）は、不動産の賃貸業等を営み当社と競業取引はありません。
- 平成8年7月 飲食店における皿の自動回収装置「自動皿カウント水回収システム」を第16号店の平井店より新規導入以後の新規出店に全店設置
- 平成9年2月 飲食物搬送装置「QRコード時間制限管理システム」が完成、既存店及び以後の新規出店に同システムを導入
- 平成9年4月 飲食店における皿の自動回収装置「自動皿カウント水回収システム」の特許取得
- 平成9年10月 無担保新株引受権付社債2億円を発行
資本金を40,000千円に増資
- 平成10年2月 お客様のご来店状況を基に、寿司皿の適正量を計測する「製造管理システム」を導入
- 平成10年3月 飲食物搬送装置「QRコード時間制限管理システム」の特許取得
- 平成11年8月 大阪府堺市（現 堺市中区）にセントラルキッチンとして深阪第二工場（現 大阪センター）が完成、稼働開始
- 平成12年12月 自動回収した皿枚数に応じてゲームを楽しめる「ビックらポン」を導入
- 平成13年1月 社団法人ニュービジネス協議会主催による第11回「アントレプレナー大賞」の最優秀賞を当社代表取締役が受賞
- 平成13年5月 株式会社大阪証券取引所、ナスダック・ジャパン市場（現 東京証券取引所「JASDAQ」）に上場
資本金を776,700千円に増資
- 平成14年4月 資本金を1,311,840千円に増資
東京都八王子市に関東圏の第1号店として八王子店を開店
携帯会員登録で待たずに座れる「epark（順番予約）システム」を導入
- 平成14年11月 簡単操作で注文できる「タッチで注文システム」を導入
- 平成15年8月 リアルタイムの動画中継で店舗運営をサポートする「店舗遠隔支援システム」を導入
- 平成16年5月 100号店として、都市開発の進むJR品川駅港南口の京王品川ビルに品川駅前店を開店
- 平成16年10月 株式会社東京証券取引所市場第二部に上場
資本金を1,963,732千円に増資
- 平成17年3月 埼玉県日高市に関東圏全店舗のセントラルキッチンとして埼玉センターを新設
- 平成17年10月 株式会社東京証券取引所市場第一部に指定
- 平成18年4月 大阪府大阪狭山市に従業員の教育、研修などの拠点として大阪狭山研修センターを新設
- 平成19年3月 海外進出に向けた市場調査のため、米国ロサンゼルス市に100%出資の子会社「KRA CORPORATION」を設立
- 平成19年9月 大阪狭山研修センターに隣接して、大阪狭山事務所を増設
- 平成20年8月 本わさびの旨みを引き出す「直前わさび」を実施
- 平成20年11月 米国アーバイン市に、回転すしレストラン出店に向けて100%出資の子会社「Kula West Irvine, Inc.」を設立。これに伴い、ロサンゼルス市の子会社「KRA CORPORATION」は閉鎖
- 平成21年3月 福岡県糟屋郡に九州及び西中国地区店舗のセントラルキッチンとして、大阪・埼玉に次いで3番目となる福岡センターを開設
- 平成21年7月 ご注文商品を高速レーンで素早くお届けする「オーダーレーン」を導入
- 平成21年9月 米国アーバイン市に回転すしレストラン海外1号店「Kula Revolving Sushi Bar」を開店
- 平成23年6月 米国子会社「Kula West Irvine, Inc.」の商号を「Kula Sushi USA, Inc.」に変更
- 平成23年11月 ウイルスやほこりから守る寿司キャップ「鮮度くん」全店配置を完了
- 平成24年11月 「7種の魚介醤油らーめん」を全店で販売開始
- 平成25年12月 「KULA CAFÉ」ブランドでの本格珈琲の提供を全店で開始
- 平成26年1月 台湾台北市に、100%出資の子会社「台湾國際藏壽司股份有限公司」を設立
- 平成26年4月 お客様の利便性向上のため、「待たずに食べられる時間指定予約システム」を全店導入

3【事業の内容】

当社グループは当社及び連結子会社1社により構成されており、すしを主力とする直営による回転すし店のチェーン展開が主たる事業であります。

事業の系統図は次のとおりであります。

なお、当社グループは飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。



(注) 台湾子会社「台湾國際藏壽司股份有限公司」は、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、全体として重要性がないため事業系統図への記載を省略しております。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) Kula Sushi USA, Inc.	米国 カリフォルニア州	407	米国における回転 すし店舗の展開	100	役員の兼任及び取引はあ りません。

(注) Kula Sushi USA, Inc.は、特定子会社であります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成26年10月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(人)
飲食事業	1,097(10,100)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

(平成26年10月31日現在)

従業員数(人)	平均年令(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,070(9,951)	29.2	5.1	4,294,073

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。
3. 当社は、飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

「くら労働組合」が平成19年5月に結成されておりますが、労使関係は円満に推移しており特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度（平成25年11月1日から平成26年10月31日まで）におけるわが国経済は、有効求人倍率が6年ぶりに1倍を超え、大企業を中心とした名目賃金の上昇がみられるなど、雇用・所得環境が改善されました。しかしながら、消費税増税と円安による物価上昇から、家計の実質可処分所得が圧迫され、個人消費はさえない動きとなりました。

当社グループが属する外食産業におきましては、総務省が発表した10月の家計調査によりますと、2人以上の世帯における外食を含む「食品」支出は消費税増税後7か月連続で前年を下回り、節約志向が鮮明になりました。さらに、円安に伴う原材料価格の上昇に加え、人材不足による人件費の上昇など、当社グループにとって依然として厳しい環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは創業以来のコンセプトとして『四大添加物（化学調味料・人工甘味料・合成着色料・人工保存料）』を完全に排除した商品を開発・提供してまいりました。

うどんや茶碗蒸しに使うだしは、コストと手間をかけ基本に忠実に1日数回、店舗で昆布やカツオなどからとっております。上品でくせの無い、加工品では出すことのできない天然のだしを使用することにより、お子様にも安心な自然でやさしい味わいと、多くのお客様にご好評をいただいております。

当社グループの行動指針の一つであります「見えないところを大切に」を積み重ね、従業員自身が家族や友達を呼びたいと思う店づくりに努め、誠実に商品提供させていただいております。

当連結会計年度におきましても、お客様の満足度を高めるべくさまざまな商品提案を行いました。平成25年12月にはプレミアムコーヒーブランド「KULA CAFÉ」として、「プレミアムホット珈琲（税抜150円）」など、豆と挽きたてにこだわった珈琲4種を新発売いたしました。平成26年3月にはスペイン産イペリコ豚の最高ランク「ベジョータ」を使用した「イペリコ豚丼（税抜400円）」を新発売いたしました。また、5月には「すしやのうな丼（税抜580円）」に加え、うなぎを2枚のせた「すしやの特上うな丼（税抜980円）」を新発売いたしました。8月には「特製玉子だれで食べる『海鮮丼』（税抜680円）」を新発売し、9月には女性をターゲットにしたスイーツ「揚げたて豆乳ドーナツ（税抜230円）」を新発売いたしました。

どんな高級食材、良質な魚を仕入れても、お客様の口に運ばれるまでに鮮度が落ちるとムダになります。当社は鮮度を守る寿司キャップ「鮮度くん」や、出来立ての商品をすばやく提供できる「オーダーレーン」を活用し、「鮮度（作りたて）」と「その価格で最高の味」にこだわった商品の開発・提供を今後も推進してまいります。

販売促進面におきましては、人気寿司ネタの「まぐろ」、「サーモン」などをご提供するフェアを実施いたしました。平成26年1月には大手回転すしチェーンで初めてとなる「極上ふぐフェア」を実施し、「ふぐにぎり極旨一貫（税抜100円）」や「ふぐ三点盛り（税抜200円）」、「ふぐのから揚げ（税抜230円）」などを、ふぐが販売可能な都府県でご提供させていただきました。さらに、期間限定で「国産とらふぐ」を税抜200円という低価格で販売し、お客様にご好評をいただきました。

6月には「極上かにフェア」に合わせ、アニメ「妖怪ウォッチ」グッズがビックラポンで当たるキャンペーンを実施いたしました。景品において「DX妖怪ウォッチ」や「妖怪メダル」をご用意し好評をいただきました。7月には、景品とは別に来店いただいたお客様先着50万名様に「妖怪ウォッチオリジナルポストカード」プレゼント企画やお客様が店頭で楽しめるように「くら寿司でDS」を活用した「くら寿司で発見！妖怪マップ」の配信も実施いたしました。

お客様の利便性向上を図るため、平成26年4月には、大手回転すしチェーンでは初めてとなる「待たずに食べられる時間指定予約システム」を全店導入いたしました。パソコンやスマートフォンから来店15日前より10分単位の時間指定予約が可能になったのに加え、予約可能件数を増やし、土日の夕食時にも待たずにお食事いただけることで、多くのお客様にご好評をいただいております。

以上のような諸施策を行いました効果もあり、既存店売上高につきましては前年同期比104.2%と好調に推移いたしました。

店舗開発につきましては、平成26年9月に東京山手線内として初めてとなる池袋東口店（205席）への出店を含め、西日本地区で10店舗、東日本地区で3店舗の計13店舗を新規出店し、米国子会社「Kula Sushi USA, Inc.」の7店舗を加えた結果、当連結会計年度末の店舗数は、全て直営で351店舗（「無添蔵」4店舗、米国子会社7店舗を含む）となりました。

また、当社グループは当社グループを取り巻くさまざまな事業リスクに対応するため、財務戦略を重視しております。前連結会計年度に引き続き実質無借金（現預金の額が有利子負債を上回ること）にて運営しており、自己資本比率は当連結会計年度末58.5%と、財務の健全性を維持しております。さらに、平成26年10月に資本効率を高める目的で、自己株式95万6,600株（発行済株式総数比4.62%、総額23億53百万円）を取得いたしました。良好な財務内容を背景に、原材料の安定調達を担保すると同時に、より快適な飲食環境を提供するため、戦略的な投資を実行してまいります。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は969億38百万円（前年同期比10.0%増）、営業利益48億15百万円（同20.5%増）、経常利益51億75百万円（同16.2%増）、当期純利益は30億40百万円（同21.5%増）となり、いずれも過去最高となりました。

なお、当社グループは飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（２）キャッシュ・フロー

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが84億43百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが25億94百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが45億92百万円の支出となりました。この結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）残高は、71億68百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果得られた資金は84億43百万円（前年同期比36.7%増）となりました。これは、主に税金等調整前当期純利益が51億2百万円となり、減価償却費が34億46百万円あった一方で、法人税等の支払額が18億77百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果使用した資金は25億94百万円（前年同期比24.3%減）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出が18億38百万円、貸付けによる支出（建設協力金等の支出）が2億83百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果使用した資金は45億92百万円（前年同期比120.6%増）となりました。これは、リース債務の返済による支出が17億90百万円、自己株式の取得による支出が23億53百万円あったこと等によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループは、最終消費者へ直接販売する飲食業を行っておりますので、生産実績は記載しておりません。

(2) 仕入実績

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の原材料の仕入実績を品目別に記載しております。

品目	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)	前年同期比(%)
魚介類(千円)	24,534,866	15.1
穀類・麺類(千円)	3,906,075	1.0
調味料(千円)	2,842,686	1.2
野菜・果物類(千円)	2,050,771	12.8
酒類・飲料(千円)	1,662,719	7.7
その他(千円)	5,856,329	15.1
合計(千円)	40,853,449	11.9

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当社グループは、最終消費者へ直接販売する飲食業を行っておりますので、受注状況は記載しておりません。

(4) 販売実績

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の販売実績を事業部門別に記載しております。

事業部門別	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)	前年同期比(%)
回転すし(千円)	96,938,352	10.0
合計(千円)	96,938,352	10.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

今後の外食産業は、外食企業間の競争に加え、コストパフォーマンスに優れた中食・内食志向がより強まることが予想されます。当社グループは、独自の時間管理システムによる商品の鮮度管理や、全ての食材から化学調味料等の『四大添加物』の除去等、安全で高品質な商品の提供を徹底することにより、他社との一層の差別化を進めてまいります。

世間では“食の安全”に関わる事件・事故が相次ぎ、大手外食企業において、海外工場の消費期限切れ食肉使用の発覚や、過重な労働環境による従業員の離散から閉店を余儀なくされるチェーン店が現れたことに加え、食品偽装がいまだに取沙汰されるなど、消費者の外食産業を見つめる視線（安全性・コストパフォーマンス・企業姿勢）はますます厳しさを増しております。この状況に、食に携わる者として強い危機感を持っており、「安心・安全」な商品提供に努めてきた当社グループにとって真価の問われる局面であると認識しております。見たり、触れたりすることができず、実感することの難しい「安心・安全」を、いかにお客様にご理解いただくか、今後も引き続き、企業コンセプトである“安心・おいしい・安価”そして“楽しい”食の提供に徹していくことで、より多くのお客様の信頼を得られるよう取り組んでまいります。

効率的な店舗運営

“安心・おいしい・安価”そして“楽しい”食事を提供し続けるため、コストパフォーマンスの向上に取り組み、さらにIT化を推進するとともに、アミューズメント機能を充実させ、顧客満足度を高めてまいります。ますます多様化するお客様のニーズを敏感に捉えた商品・サービスの提供を迅速かつ確実にする体制を整えてまいります。

出店戦略

「無添（むてん）くら寿司」ブランドを広く認知していただけるよう出店地域の拡大を図りつつ、不採算店を出さないために出店条件の厳格化及び一層のコスト削減に取り組めます。次期の国内出店は20店舗を予定しています。

人材の確保・育成

縮小する外食産業において、他社との競争に勝つためには人材の確保・育成が重要な課題と認識しております。お客様にご満足いただくためには、安全で高品質な商品をご提供するとともに、従業員の接客力向上が大切であると考えております。“教育日本一企業”を目指して「大阪狭山研修センター」においては、社長が講師を務める“社長塾”をはじめ、パート・アルバイト従業員を対象にした研修会を実施するとともに、海外展開に備えたカリキュラムも充実させ、グローバルな人材育成にも注力してまいります。

商品戦略

日本固有の食文化である寿司をベースに食の可能性を追求し、高付加価値商品の開発と既存商品の価値拡大に努め、商品競争力を向上させることにより、成熟市場の中でシェアの拡大および収益の向上を図ってまいります。

今後も、上記課題を克服し、高付加価値を生み出す企業体質を構築していくことで、全てのステークホルダーの皆様のご期待に応えてまいります。

4【事業等のリスク】

当社グループが事業を遂行するにあたって、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスク事項には、次のようなものがあります。なお、本項における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

すしを主力とする回転すし店のチェーン展開を主たる事業とする当社グループにとりましては、外食産業の抱える一般的なリスクに加え、当社グループ固有の戦略に起因するリスクがあります。

当社グループは、これらのリスク発生の可能性を十分認識しており、発生の回避に努めるとともに、万が一、発生した場合の対応には万全を期する方針であります。

食品の安全管理について

当社グループは、“食の戦前回帰”を経営理念に、創業以来、食の安全にこだわりを持ち、無添加米の使用、全ての食材から「化学調味料」・「人工甘味料」・「合成着色料」・「人工保存料」の四大添加物除去等を実現し、「安全・美味しい・安い」食を提供してきた当社グループにとって、最大のリスク要因は食中毒の発生と認識しており、衛生管理の専門家を配置した「品質管理室」を設置する等、さまざまな対策を講じておりますが、万が一、食中毒などの衛生問題が発生した場合、企業イメージの失墜による売上高の減少、損害賠償費用の発生、一定期間の営業停止や営業許可取り消し等により、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

食材の仕入れについて

当社グループは、トレーサビリティ（生産履歴）の追求や産地仕入れの分散・拡大に努める等、食材の品質管理を最重要課題と認識しております。全ての食材におきまして、当社グループ基準に則った品質内容の確認、検査及び定期的な報告を義務付けておりますが、万が一、不適切な食材の混入が発生した場合には、社会的信用が失墜し、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、資源の枯渇が危惧される品種の漁獲規制等により、原材料の入荷が困難になった場合、顧客のニーズに即した商品提供が叶わないことによる顧客満足度の低下を招き、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

出店戦略について

次期には、国内店舗20店舗の出店を計画しておりますが、新規出店は、賃料、商圈人口、アクセス、競合店の状況等を総合的に勘案いたしますので、条件に合う物件が確保できない場合には計画通りの出店ができなくなり、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、出店計画に見合った人材確保のため、採用計画を立てておりますが、必要な人材の確保および育成が不芳に終わった場合、店舗運営に支障をきたすこととなり、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

システム障害について

当社グループは、外食産業にあって積極的にIT化を推進している企業と評されております。全食材の受発注、従業員の勤怠管理、売上管理等の店舗管理システムの運営管理は、信頼のおける外部業者に委託しており、万全の体制を整えておりますが、万が一、大災害、停電や機器の欠陥、コンピュータウィルス等不測の事態によりシステム障害が発生した場合には食材調達、勤怠管理等店舗運営に支障をきたすこととなり、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

為替変動について

当社は、原材料である魚介類の一部について、商社経由で輸入しております。したがって、為替変動により、当社の原材料調達価格に影響し、当社の業績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。また在外子会社の外貨建て財務諸表を日本円に換算した場合、資産・負債、売上・費用は変動することとなります。

特有の取引慣行に基づく損害について

当社グループは、回転すし事業を展開するにあたり、店舗オーナーとの賃貸借契約締結に基づく保証金の差入れを行っております。また、オーナーが店舗建物を建設するための建設協力金を融資する場合もあり、賃借料との相殺により分割返済を受けておりますが、オーナーの破産等による保証金及び建設協力金の回収不能が発生した場合、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

法規制に係るものについて

当社グループが営んでいる外食産業に関する法的規制には、食品の安全性の確保のために公衆衛生の見地から必要な規制その他の措置を定めた「食品衛生法」及び食品循環資源の再生利用並びに食品廃棄物等の発生の抑制及び減量に関し基本的な事項を定めた「食品循環資源の再利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)」があります。また、厚生労働省は、週の所定労働時間が20時間以上の短時間労働者に厚生年金を適用する方針を示しております。また、消費税増税に伴う影響も懸念されます。これらの法的規制が強化又は法改正が適用された場合、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

自然災害リスクについて

当社グループの工場や店舗所在地を含む地域で大規模な地震や台風等による風水害が発生した場合、被災状況によっては事業活動が困難となり、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

知的財産について

当社グループは、当社グループにおいて開発した技術については、必要に応じて、特許権、実用新案権、商標権等の工業所有権を取得しており、重要な経営資源であると考えております。しかし、他社が類似したものやより優れたものを開発した場合、当社グループの優位性が損なわれることとなり、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

海外戦略について

当社グループは、日本の食文化の代表である「寿司」を通して、世界の人々の幸せに貢献できる企業を目指し、海外戦略を具体的に推進するため、米国子会社「Kula Sushi USA, Inc.」におきまして、当連結会計年度末現在7店舗を運営しております。また、2番目の海外拠点として、平成26年1月、台湾台北市に当社100%出資による現地法人「台湾國際藏壽司股份有限公司」を設立し、平成26年12月に台湾1号店となる「松江南京店」をオープンいたしました。両国におきまして引き続き多店舗展開に向けて、市場調査(候補地域選定、関係法令の精査等)を念入りに行い、万全を期してまいりますものの、事業展開する国において、政治、経済、社会の変化など、予期せぬ事象により当該事業の活動に問題が生じた場合、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当連結会計年度における主な研究開発活動は、新規メニュー開発のための食材購入費用等で総額2,109千円となっております。

なお、当社グループは飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績

(売上高)

13店舗の新規出店を行ったほか、「KULA CAFÉ」ブランドによる本格珈琲及び各種丼等のサイドメニューの充実が寄与し、当連結会計年度の売上高は、前年実績を上回る969億38百万円（前年同期比10.0%増）となりました。

(営業利益)

売上原価は、443億52百万円となり、対売上高原価率は45.8%となりました。また、販売費及び一般管理費は、477億70百万円となり、対売上高販管費比率は49.3%となりました。その結果、営業利益は48億15百万円（同20.5%増）となり、前年実績を上回りました。

(経常利益)

為替差益の発生等により、営業外収益は5億40百万円となりました。営業外費用は、支払手数料等の計上により、1億80百万円となりました。

以上により、経常利益は51億75百万円（同16.2%増）となりました。

(特別損益及び当期純利益)

特別利益は、固定資産を売却したことにより、1百万円となりました。特別損失は店舗閉鎖損失26百万円、減損損失32百万円、固定資産除却損15百万円を計上した結果、74百万円となりました。

また、法人税等は、税効果会計適用後の負担率が40.4%となっております。

以上により当期純利益は、30億40百万円（同21.5%増）となりました。

(2) 財政状態

(資産の部)

当連結会計年度末の総資産額は381億39百万円となり、前連結会計年度末と比較して16億60百万円増加となりました。これは、主に減価償却費等により無形固定資産が3億36百万円減少した一方で、現金及び預金が13億21百万円、投資その他の資産のその他が2億39百万円、それぞれ増加したこと等によるものであります。

(負債の部)

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して11億87百万円増加し、158億46百万円となりました。これはリース債務が5億49百万円減少した一方で、買掛金が5億32百万円、未払法人税等が2億94百万円、流動負債のその他が7億70百万円、それぞれ増加したこと等によるものであります。

(純資産の部)

純資産につきましては、利益剰余金が27億92百万円増加した一方で、自己株式が23億53百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して4億73百万円増加し、222億93百万円となりました。

(3) 資本の源泉及び資金の流動性についての分析

(キャッシュ・フロー)

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの概況については、「1業績等の概要(2)キャッシュ・フロー」をご参照ください。

(資金調達及び流動性)

取引銀行1行と貸出コミットメントライン契約（総額15億円）を締結しております。本契約における当連結会計年度末の借入実行残高はありません。

また、リスク管理の一環として、大規模な天災等の不測の事態に備え、流動性を確保するためのバックアップラインとして総額20億円の長期コミットメントライン契約を取引銀行2行との間で締結しております。

本契約における当連結会計年度末の借入実行残高はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、店舗設備を中心に36億56百万円（差入保証金、建設協力金を含む）の設備投資を実施いたしました。そのうち主なものは、新規出店に伴う造作設備等に22億82百万円、既存店舗の造作設備等に12億74百万円であります。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

また、当社グループは飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は以下のとおりであります。

なお、当社グループは飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1) 提出会社

当社は、回転すしの直営店344店舗とすしネタ加工センター4ヶ所及びその他の設備を設けております。

(平成26年10月31日現在)

事業所名 (所在地)	事業部門別の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
大阪センター他 (堺市中区)	回転すし	すしネタ加工設備	149,879	9,348	309,760 (2,217.07) [1,038.50]	18,703	5,400	493,091	35 (272)
埼玉センター (埼玉県日高市)	回転すし	すしネタ加工設備	299,792	11,120	27,270 (601.00) [8,779.00]	5,857	3,807	347,848	121 (173)
福岡センター (福岡県糟屋郡)	回転すし	すしネタ加工設備	161,359	17,080	- [3,530.00]	6,908	2,248	187,596	16 (49)
青森県 1店舗	回転すし	店舗設備	96,664	2,665	- [2,542.39]	34,755	1,236	135,322	4 (29)
岩手県 2店舗	回転すし	店舗設備	142,400	5,519	- [4,294.45]	70,162	418	218,501	6 (51)
宮城県 3店舗	回転すし	店舗設備	18,995	3,313	- [5,868.75]	17,502	54	39,866	8 (81)
茨城県 5店舗	回転すし	店舗設備	170,359	5,497	- [12,351.10]	29,925	859	206,641	8 (124)
群馬県 4店舗	回転すし	店舗設備	82,064	1,461	- [9,583.69]	33,054	676	117,256	5 (98)
栃木県 2店舗	回転すし	店舗設備	106,294	4,876	- [2,486.36]	42,455	590	154,216	4 (50)
長野県 4店舗	回転すし	店舗設備	172,919	6,533	- [10,092.55]	73,115	466	253,035	7 (93)
埼玉県 22店舗	回転すし	店舗設備	537,698	39,873	- [41,470.76]	185,218	15,136	777,926	41 (572)
東京都 28店舗	回転すし	店舗設備	876,032	60,197	- [32,542.18]	407,751	21,349	1,365,330	66 (793)
神奈川県 28店舗	回転すし	店舗設備	650,367	48,680	425,000 (1,869.09) [33,523.62]	277,274	18,709	1,420,031	58 (756)
千葉県 15店舗	回転すし	店舗設備	502,702	28,268	- [21,520.32]	230,585	8,531	770,086	38 (386)
山梨県 3店舗	回転すし	店舗設備	22,522	5,211	- [5,081.57]	20,557	240	48,531	3 (67)
静岡県 8店舗	回転すし	店舗設備	312,286	7,556	- [19,031.60]	45,730	1,606	367,179	20 (192)
愛知県 19店舗	回転すし	店舗設備	1,065,285	45,399	- [30,680.50]	289,488	6,952	1,407,125	87 (503)
岐阜県 6店舗	回転すし	店舗設備	206,828	12,575	- [10,540.00]	65,511	1,587	286,502	13 (156)
三重県 7店舗	回転すし	店舗設備	175,555	13,821	- [12,665.45]	59,049	3,934	252,362	11 (193)
石川県 4店舗	回転すし	店舗設備	121,108	7,659	- [9,723.00]	35,352	57	164,178	6 (101)

事業所名 (所在地)	事業部門別の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
富山県 4店舗	回転すし	店舗設備	48,100	6,002	- [10,567.11]	37,270	475	91,849	15 (101)
福井県 3店舗	回転すし	店舗設備	176,949	16,693	- [4,674.71]	53,827	1,407	248,878	8 (71)
滋賀県 8店舗	回転すし	店舗設備	158,699	8,249	- [17,612.38]	94,586	2,411	263,946	15 (203)
京都府 16店舗	回転すし	店舗設備	440,019	39,454	- [37,082.70]	136,961	7,152	623,587	24 (477)
大阪府 55店舗	回転すし	店舗設備	1,615,044	93,317	1,451,588 (9,840.80) [67,593.84]	527,411	21,733	3,709,095	81 (1,564)
奈良県 9店舗	回転すし	店舗設備	198,840	27,519	- [20,853.99]	86,984	5,480	318,825	12 (250)
兵庫県 29店舗	回転すし	店舗設備	908,323	55,842	- [40,513.17]	245,510	14,744	1,224,421	47 (797)
和歌山県 7店舗	回転すし	店舗設備	179,108	12,323	- [16,424.43]	53,616	2,755	247,803	8 (192)
鳥取県 2店舗	回転すし	店舗設備	109,636	10,223	- [4,958.57]	38,242	417	158,520	4 (53)
島根県 2店舗	回転すし	店舗設備	27,276	3,715	- [4,588.97]	24,006	38	55,037	2 (58)
岡山県 3店舗	回転すし	店舗設備	94,566	3,183	- [8,232.42]	29,815	397	127,962	5 (83)
広島県 5店舗	回転すし	店舗設備	366,605	14,268	- [12,000.65]	150,462	2,392	533,728	14 (154)
山口県 2店舗	回転すし	店舗設備	85,381	6,489	- [2,753.26]	55,076	661	147,609	5 (61)
香川県 3店舗	回転すし	店舗設備	153,680	8,759	- [7,752.72]	58,349	185	220,976	6 (81)
愛媛県 3店舗	回転すし	店舗設備	259,011	22,707	- [7,651.29]	68,014	686	350,420	8 (59)
徳島県 2店舗	回転すし	店舗設備	168,063	13,052	- [4,057.76]	46,615	95	227,827	4 (52)
高知県 2店舗	回転すし	店舗設備	170,332	14,998	- [4,505.08]	56,970	558	242,860	6 (59)
福岡県 16店舗	回転すし	店舗設備	747,516	24,494	- [82,163.06]	269,538	4,267	1,045,817	31 (464)
佐賀県 3店舗	回転すし	店舗設備	78,189	12,862	- [4,176.67]	54,104	2,225	147,381	10 (90)
長崎県 1店舗	回転すし	店舗設備	92,538	9,041	- [2,644.62]	25,028	260	126,868	2 (27)
熊本県 5店舗	回転すし	店舗設備	60,078	1,916	- [9,628.29]	43,115	14	105,125	6 (119)
大分県 1店舗	回転すし	店舗設備	76,896	184	- [2,539.08]	23,182	196	100,460	2 (25)
鹿児島県 2店舗	回転すし	店舗設備	140,200	6,355	- [4,181.27]	40,753	762	188,071	4 (56)

事業所名 (所在地)	事業部門別の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)	
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
本社 (堺市中区)	管理部門	事務所	8,058	703	- [613.00]	1,431	9,397	19,591	26 (18)
大阪狭山事務所・ 大阪狭山研修センター (大阪府大阪狭山市)	管理部門	事務所	105,206	3,662	115,876 (1,577.30) [421.95]	15,045	4,970	244,761	145 (92)
梅田事務所 (大阪市北区)	管理部門	事務所	2,557	-	- [180.47]	616	1,240	4,414	18 (4)
中野事務所 (東京都中野区)	管理部門	事務所	1,455	-	- [137.23]	-	-	1,455	5 (2)
賃貸設備 (千葉県印西市)	-	賃貸設備	75,902	-	- [4,432.46]	-	255	76,158	- (-)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含んでおりません。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 土地の()内面積は、外数で自社保有分を示しております。
3. 土地の[]内面積は、外数で賃借分を示しております。
4. 従業員数の()は臨時雇用者数であり、年間平均人員を外数で示しております。

(2) 国内子会社

該当事項はありません。

(3) 在外子会社

(平成26年10月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
Kula Sushi USA, Inc.	米国 カリフォルニア州	飲食事業	店舗設備(7店舗)及び事務所	373,501	4,443	- [1,670.44]	45,689	423,635	27 (149)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおりません。

なお、金額には、消費税等を含めておりません。

2. 土地の[]内面積は、外数で賃借分を示しております。
3. 従業員数の()は臨時雇用者数であり、年間平均人員を外数で示しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、ドミナントエリアの構築、投資効率、社内体制等を総合的に勘案して計画しております。

平成26年10月31日現在における重要な設備の新設、改修等の計画は次のとおりであります。

なお、当社グループは飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1) 重要な設備の新設

所在地	店舗数等	事業部門別の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定		増加能力 (増加客席数)
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
西日本地区	10	回転すし	店舗設備	1,833	57	自己資金 借入金	平成26年9月	平成27年10月	1,963
東日本地区	10	回転すし	店舗設備	1,829	132	自己資金 借入金	平成26年10月	平成27年10月	1,962
合計	20	-	-	3,662	189	-	-	-	3,925

(注) 1. 投資予定金額の総額には差入保証金及び建設協力金611百万円を含んでおります。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 月別出店計画は次のとおりであります。

年月	平成26年 11月	12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
店舗数	-	1	1	1	3	1	2	3	2	-	3	3

(2) 重要な改修

重要な改修の計画はありません。

(3) 重要な除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成26年10月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成27年1月30日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,699,800	20,699,800	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	20,699,800	20,699,800	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成22年5月1日 (注)	20,596,301	20,699,800	-	2,005,329	-	2,334,384

(注) 株式分割

平成22年3月15日開催の取締役会決議により、平成22年5月1日付をもって、普通株式1株を200株に分割しております。

(6) 【所有者別状況】

平成26年10月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	25	27	85	130	10	15,795	16,072	-
所有株式数(単元)	-	18,301	2,028	55,332	37,790	62	93,456	206,969	2,900
所有株式数の割合(%)	-	8.84	0.98	26.73	18.26	0.03	45.16	100.00	-

(注) 1. 自己株式956,720株は、「個人その他」に9,567単元及び「単元未満株式の状況」に20株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」の中には証券保管振替機構名義の株式が12単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ウォルナットコーポレーション	堺市中区榎葉170-1-406	5,249,400	25.35
田中 信	堺市東区	2,311,600	11.16
田中 邦彦	堺市東区	1,180,000	5.70
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND(常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	797,300	3.85
田中 節子	堺市東区	590,000	2.85
くらコーポレーション従業員持株会	大阪府大阪狭山市今熊1丁目550-4	370,300	1.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	277,900	1.34
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	227,900	1.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社紀陽銀行口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	192,000	0.92
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	177,600	0.85
計	-	11,374,000	54.94

(注) 1. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

2. 上記のほか、自己株式が956,720株あります。

3. フィデリティ投信株式会社より、平成22年3月19日付で提出された大量保有変更報告書により、平成22年3月15日現在で、4,250株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当事業年度末時点における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況に含めておりません。なお、大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー	4,250	4.11

(注) 平成22年5月1日付の株式分割(普通株式1株 200株)を勘案しますと、「保有株券等の数」は、850,000株となります。

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成26年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 956,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,740,200	197,402	-
単元未満株式	普通株式 2,900	-	-
発行済株式総数	20,699,800	-	-
総株主の議決権	-	197,402	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄には証券保管振替機構名義の株式が1,200株含まれております。

また、「議決権の数」の欄には同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数12個が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式956,720株のうち20株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社くらコーポ レーション	堺市中区深阪1035 番地2	956,700	-	956,700	4.62
計	-	956,700	-	956,700	4.62

(注) 所有者の住所は、平成26年10月31日現在の住居表示で記載しております。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成26年8月29日)での決議状況 (取得期間 平成26年9月1日～平成26年10月31日)	1,000,100	2,460,246,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	956,600	2,353,236,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	43,500	107,010,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	4.3	4.3
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	4.3	4.3

(注)上記の取得自己株式は、平成26年8月29日開催の取締役会決議に基づく、自己株式の公開買付けによる取得であります。

(取得の内容)

1. 公開買付期間 平成26年9月1日から平成26年9月30日まで
2. 取得した株式の総数 956,600株
3. 買付価格 普通株式1株につき2,460円
4. 取得価額の総額 2,353,236千円

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	956,720	-	956,720	-

(注)当期間における保有自己株式数には、平成27年1月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主各位に対する配当政策を重要な経営課題の一つとして位置付けておりますが、今後の積極的な事業展開を勘案し、必要な内部留保を確保するとともに、将来においても安定した利益配当を継続することを基本方針としております。

当社は、毎年10月31日を基準日とする期末配当と、毎年4月30日を基準日とする中間配当、及び別に基準日を定めて剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。

内部留保資金につきましては、業容の拡大に向けた財務体質の強化及び店舗の新設、その他の資金需要を賄う原資として活用してまいります。

上記の方針に基づき、当連結会計年度の配当につきましては、当社普通株式1株につき12円といたしました。

なお、当社は「会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定めることができる」旨を定款に定めております。

当連結会計年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年12月16日 取締役会決議	236,916	12

(注) 当連結会計年度に係る中間配当はございません。

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第15期	第16期	第17期	第18期	第19期
決算年月	平成22年10月	平成23年10月	平成24年10月	平成25年10月	平成26年10月
最高(円)	343,000 1,675	1,371	1,378	1,777	3,190
最低(円)	242,800 1,273	810	950	1,097	1,495

(注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2. 平成22年5月1日を効力発生日として普通株式1株を200株に分割しております。

3. 平成22年5月1日を効力発生日として、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。

4. 印は、株式分割権利落後の株価であります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年5月	6月	7月	8月	9月	10月
最高(円)	2,154	2,768	2,870	3,080	3,085	3,190
最低(円)	1,941	2,101	2,660	2,700	2,739	2,839

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長		田中 邦彦	昭和26年1月27日生	昭和48年4月 株式会社タマノ亾許入社 昭和52年5月 個人の寿司店を創業 昭和59年7月 回転寿司くら寿司を開店 平成2年3月 株式会社くら寿司(現株式会社ウォルナットコーポレーション)を設立 代表取締役就任 平成7年11月 当社設立 当社代表取締役社長就任(現任) 平成22年3月 製造本部長 平成23年11月 人事本部長 平成25年9月 店舗開発本部長	(注)4	1,180,000
取締役副社長	西日本業務本部長兼人事本部長兼経営戦略本部長	田中 信	昭和50年3月26日生	平成10年4月 当社入社 平成11年5月 藤井寺店店長 平成13年5月 北津守店店長 平成16年5月 泉北店店長 平成19年2月 採用部マネージャー 平成20年11月 株式会社ウォルナットコーポレーション代表取締役就任(現任) 平成23年4月 業務部統括マネージャー 平成24年12月 西日本業務本部シニアマネージャー 平成25年9月 西日本業務本部シニアマネージャー兼人事本部シニアマネージャー 平成26年1月 取締役就任 西日本業務本部長兼人事本部長 平成26年11月 取締役副社長就任(現任) 平成27年1月 西日本業務本部長兼人事本部長兼経営戦略本部長(現任)	(注)4	2,311,600
常務取締役	製造本部長	久宗 裕行	昭和46年2月15日生	平成7年11月 当社入社 高石店店長 平成10年2月 スーパーバイザー 平成13年5月 オープニング担当マネージャー 平成16年5月 総務部マネージャー兼お客様相談室長 平成18年7月 関東統括マネージャー 平成19年1月 取締役就任 関東担当シニアマネージャー 平成20年11月 東日本業務本部長 平成21年10月 取締役退任 内部監査室シニアマネージャー 平成22年5月 製造部シニアマネージャー 平成23年6月 製造本部シニアマネージャー 平成23年11月 製造本部シニアマネージャー兼経理本部シニアマネージャー 平成24年1月 取締役就任 製造本部長兼経理本部長 平成26年11月 常務取締役就任(現任) 平成27年1月 製造本部長(現任)	(注)4	9,400
取締役	東日本業務本部長	伊藤 敬人	昭和46年9月11日生	平成7年11月 当社入社 平成10年4月 平野店店長 平成13年2月 スーパーバイザー 平成14年6月 関東業務部マネージャー 平成18年4月 店舗開発部マネージャー 平成19年1月 関東店舗開発部マネージャー 平成20年11月 内部監査室長 平成21年11月 東日本業務部シニアマネージャー 平成22年11月 東日本業務本部長 平成23年1月 取締役就任(現任) 平成23年11月 業務本部長 平成24年1月 東日本業務本部長(現任)	(注)4	14,400
取締役	購買本部長	葛木 啓之	昭和28年1月27日生	昭和51年3月 イズミヤ株式会社入社 平成13年9月 当社入社 製造本部商品部シニアマネージャー 平成14年12月 購買部シニアマネージャー 平成15年1月 取締役就任(現任) 平成20年11月 購買本部長兼ロジスティック本部長 平成21年11月 購買本部長(現任)	(注)4	4,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	海外事業本部長 兼法務本部長	亀井 学	昭和50年2月14日生	平成9年3月 当社入社 平成11年4月 角田店店長 平成13年2月 オペレーション担当マネージャー 平成15年9月 オープニング担当マネージャー 平成18年4月 購買部マネージャー 平成19年7月 東日本業務部マネージャー 平成23年6月 業務本部シニアマネージャー 平成24年1月 取締役就任(現任) 西日本業務本部長 平成24年7月 西日本業務本部長兼海外事業本部長 平成24年12月 海外事業本部長 平成25年9月 海外事業本部長兼法務本部長 平成25年11月 海外事業本部長兼法務本部長兼経営 戦略本部長 平成27年1月 海外事業本部長兼法務本部長 (現任)	(注)4	14,800
取締役	環境事業本部長	田中 節子	昭和24年3月31日生	平成2年3月 株式会社くら寿司(現株式会社ウォ ルナットコーポレーション)取締役 就任(現任) 平成7年11月 取締役就任(現任)営業企画室長 平成11年10月 店舗開発部長 平成13年9月 社長室長兼環境対策室長 平成15年10月 環境事業部シニアマネージャー 平成20年11月 環境事業本部長(現任)	(注)4	590,000
取締役	店舗開発本部長	馬場 邦行	昭和49年8月15日生	平成10年4月 大和工商リース株式会社(現大和 リース株式会社)入社 平成22年1月 当社入社 店舗開発部開発担当 平成25年6月 店舗開発部マネージャー 平成25年9月 店舗開発部マネージャー 平成26年1月 取締役就任(現任) 店舗開発本部長(現任)	(注)4	-
取締役	経理本部長	津田 京一	昭和37年11月3日生	昭和61年4月 エスケー化研株式会社入社 平成11年10月 天藤製薬株式会社入社 平成16年12月 第一精工株式会社入社 平成19年11月 当社入社 平成20年1月 経理部マネージャー 平成21年1月 経理部シニアマネージャー 平成27年1月 取締役就任(現任) 経理本部長(現任)	(注)4	200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)		山本 保	昭和24年10月2日生	昭和49年11月 株式会社西洋フードシステムズ入社 平成8年11月 株式会社魚国総本社入社 平成16年7月 当社入社 平成25年6月 総務部参与 平成27年1月 当社監査役(常勤)就任(現任)	(注)5	-
監査役 (非常勤)		中野 正信	昭和22年2月6日生	昭和45年8月 監査法人中央会計事務所入所 平成元年8月 中央新光監査法人代表社員就任 平成12年9月 中野正信公認会計士事務所開設 所長就任(現任) 平成14年1月 当社監査役就任(現任)	(注)6	-
監査役 (非常勤)		大田口 宏	昭和49年8月26日生	平成12年4月 大阪弁護士会弁護士登録 辻中法律事務所入所 平成16年6月 アクア淀屋橋法律事務所入所 平成18年7月 大雪法律事務所開設 所長就任(現任) 平成24年1月 当社監査役就任(現任)	(注)7	-
計						4,124,400

- (注) 1. 取締役田中節子は代表取締役社長田中邦彦の配偶者であります。
2. 取締役副社長田中 信は代表取締役社長田中邦彦の長男であります。
3. 監査役中野正信氏・大田口 宏氏は、社外監査役であります。
4. 平成27年1月29日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
5. 平成27年1月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 平成25年1月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
7. 平成24年1月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
8. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
笠井 勝美	昭和49年8月9日生	平成11年3月 当社入社 平成12年8月 加賀屋店店長 平成13年8月 長田店店長 平成14年2月 スーパーバイザー 平成15年3月 人事部採用担当マネージャー 平成19年4月 くら労働組合委員長 平成23年6月 総務部マネージャー 平成24年5月 人事本部労務給与部マネージャー 平成25年12月 人事本部労務給与部シニアマネージャー(現任)	1,300

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社においては、株主各位の付託にお応えするため、業務の効率性・財務の健全性を確保し、企業価値を高めることが企業経営の基本であるとの考えに基づき、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人等の法的な機能に加え、さまざまな方策による経営の効率性、透明性を向上させることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針、目的としております。

企業統治の体制

取締役相互の経営監視、社外監査役2名を含む監査役の取締役会への原則参加や、社長直属の内部監査室を設けることで経営監視統制機能を高めるとともに、企業倫理向上及び法令順守等のコンプライアンスの徹底を図っております。

イ. 企業統治の体制の概要

a. 取締役会

当社の取締役会につきましては、提出日現在9名で構成されており、社外取締役はおりません。毎月1回の定時取締役会と、必要に応じて開催する臨時取締役会により、経営の基本方針に基づき、会社の重要事項等を決定し、法令及び定款に違反なきよう経営状況を審議しております。また、適時適切な開示と説明責任を果たすことが重要であるとの観点から、取締役会においては情報の共有化を促進し、月次概況等から店舗ごとの課題の早期発見と具体的な解決策を検討し、課題に対して迅速かつ機動的に対処できる体制を構築しております。

b. 監査役会

当社の監査役会は、監査役3名で構成され、定期的に監査役会を開催し、監査役間での情報共有、意見交換を行い、経営監視機能の向上を図っております。定例監査役会には内部監査室からも出席し、監査方針、会社の業務や財産の状況を調査する方法等監査役の職務執行に関することを決定しております。また、取締役会に毎月原則出席しており、当事業年度において開催された12回の取締役会への監査役3名の出席率は97%であります。職責が異なる取締役と監査役は、それぞれの視点から経営のチェックを行っており、取締役会の職務執行状況を適宜かつ十分に監視できる体制となっております。さらに、常勤監査役はリスク管理委員会のメンバーとして毎回出席し、監査役の立場から発言するとともに、監査役全員が情報共有できるよう監査役会で討議内容、決定事項について報告し、内部統制機能の強化に努めております。

c. 内部監査室

内部監査につきましては、社長直属の内部監査室を設置しており、監査役会との協力関係の下、年間計画を立てて必要な内部監査を実施しております。内部監査室の人員は1名であります。監査結果は内部監査室に集約され、内部監査室は監査役会及び会計監査を担当する監査法人と監査結果に基づいて意見交換を行い、業務の改善に向けた具体的な助言や勧告を行う等、内部監査・監査役監査・会計監査それぞれが実効あるものとなるよう相互間の連携強化を図っております。

d. 会計監査人

会計監査人として有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結し、独立した公正な立場から会計に関する監査を受けております。

e. 会議体等

・戦略会議

取締役と業務部門を中心にした各部門責任者で構成し、毎月1回開催しております。取締役会で決定した業務の執行状況、事業計画の進捗状況等について、徹底的に審議を行う一方、経営の根幹に関わる重要事項については取締役会の付議事項として上程するなど大きな役割を担っております。

・リスク管理委員会

事業運営上の様々なリスクを徹底的に洗い出し、未然防止に努めるとともに、万一発生した場合に経営に及ぼす影響を極小化するため、危機管理マニュアルを策定しておりますが、より実効性あるものとなるようリスク管理委員会を年2回の定期開催のほか、適時開催し、絶えず見直しを行っております。

・賞罰委員会

広く社会の「きまり」を守ることを徹底するため、使命感・倫理観の向上を図るため様々な取り組みを行い、コンプライアンス体制を確立しております。

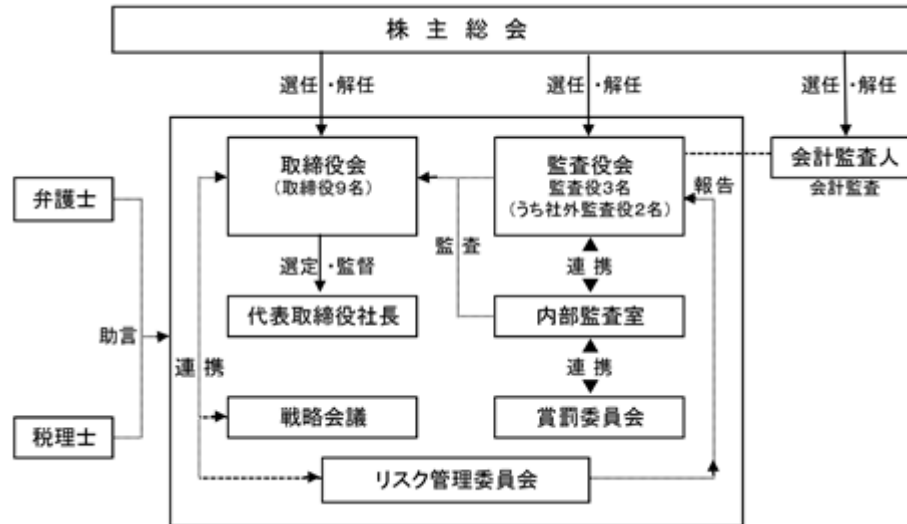
f. その他

経営諸施策及び日常業務に関して、必要に応じてアドバイスを受けられるよう複数の弁護士事務所及び税理士事務所と顧問契約を結んでおります。

ロ. 企業統治の体制を採用する理由

当社は、激しく変化する経営環境に機動的に対応するため、業務に精通し、社員に対する確かな指揮、指導を行える社内取締役を構成員とする取締役会での迅速な意思決定や業務遂行が重要であるとの考えから、社外取締役を選任していません。コーポレートガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

当社の業務執行及び監視体制を図で示すと以下のとおりであります。



ハ. 内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法施行に伴う内部統制システム構築のための基本方針を平成18年5月16日開催の取締役会において決議（平成20年4月11日及び平成25年11月14日にその一部を改定）し、公表いたしましたとおり、本報告書提出日現在、下記のとおり定めております。

- 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況
 - 1 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・「取締役会規程」に基づき、毎月取締役会を開催しております。
 - ・「取締役会規程」において、重要な業務執行について取締役会に付議すべき事項を具体的に定め、取締役会で決定を行っております。
 - ・監査役は、原則取締役会に出席し、取締役の業務執行状況について監視を行っております。
 - ・社長直轄の内部監査室を設け、経営監視機能を高めるとともに、各部門における業務執行が法令・定款に適合しているかどうか内部監査を行い、企業倫理向上及びコンプライアンスの徹底を図っております。
 - ・社会規範・業界規範・社内規範等、広く社会の「きまり」を守ることを徹底するため、社内に「賞罰委員会」を設置し、使命感・倫理観の向上を図るとともにコンプライアンス体制を確立しております。
 - 2 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ・取締役の職務の執行に係る情報については、「文書管理規程」に基づき、その保存媒体に応じて、適切かつ確実に保存・管理しております。
 - ・取締役及び監査役は、「文書管理規程」により、常時これらの文書等を検索・閲覧することができます。
 - 3 損失の危険の管理に関する規定その他の体制
 - ・リスク管理に係る規程を制定し、取締役、常勤監査役を含めた各部門長で構成する「リスク管理委員会」を年2回の定期開催のほか適時開催し、徹底したリスクの洗い出しを行っております。
 - ・内部監査部門は、各部門におけるリスク管理の状況を監査し、その結果を定期的に、監査役会及び取締役会に報告しております。
 - ・リスクが顕在化した場合には、「危機管理マニュアル」に基づき、迅速かつ組織的な対応を行い、損害を最小限に抑える体制を整えております。

- 4 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・ 経営に関する重要事項については、「出店会議」及び「戦略会議」を毎月定期的開催し、取締役会付議事項の事前審議を行っております。
 - ・ 取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、職務権限規程及び業務分掌規程に基づき、その責任者が職務権限・決裁基準に則った決定を行う体制となっております。
- 5 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - ・ 子会社及び関連会社に対しては、その業務の適正を確保し、相互に利益と発展をもたらすことを目的とした「関係会社管理規程」に基づいて統制する体制となっております。
- 6 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
 - ・ 監査役がその必要を求めた場合には、これを置くことになっております。
- 7 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項
 - ・ 補助の使用人を置く場合には、当該使用人は監査役の直属の指揮命令下に配置し、人事処遇等については、取締役会と監査役会が事前に協議の上決定することになっております。
- 8 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制
 - ・ 監査役は、原則取締役会に出席し、取締役より、重要事項の報告を受け、関係書類の配布並びに詳細な説明を受けております。
 - ・ 取締役及び使用人は、当社の業務又は業績に影響を与える重要な事項について監査役に報告することとし、職務の執行に関する法令違反、定款違反及び不正行為の事実、又は当社に損害を及ぼす事実を知った時は、遅滞なく報告することとしております。
 - ・ 監査役は、内部監査室より、内部監査状況について報告を受けております。
- 9 その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - ・ 監査役会は、内部監査室及び会計監査人と定期的な報告会を開催し、相互連携を図っております。
 - ・ 監査役会は、代表取締役社長と定期的に情報・意見交換を行っております。

・ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力・団体に対しては、組織全体として毅然とした態度で臨むものとし、反社会的勢力・団体との取引関係を排除、その他一切の関係を持つことのない体制を整えております。また、不当要求が発生した場合は総務部に情報を一元化し、対応する体制としております。

二. リスク管理体制の整備の状況

当社は、平成18年5月に制定した「リスク管理規程」に則って、リスク管理体制の強化を図っております。具体的には、取締役と常勤監査役のほか各部門長を委員とする「リスク管理委員会」を平成18年8月25日に発足し、年2回の定期開催のほか適時、委員会を開催することとしております。当社を取り巻く事業運営上の危機の発生を未然に防止し、また発生した危機が経営に及ぼす影響を極小化させることを目的として、平成19年9月1日に「危機管理マニュアル」を構築いたしました。「危機管理マニュアル」の遵守により、リスク管理能力と有事における対応能力の向上を図っております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査は、社長直轄の内部監査室を設け専任者を1名配置し、監査役会との協力関係の下、年間計画を立てて必要な内部監査を実施しております。監査結果は内部監査室に集約され、内部監査室は監査役会及び会計監査人と監査結果に基づいて意見交換を行い、業務の改善に向けた具体的な助言や勧告を行う等、内部監査・監査役監査・会計監査それぞれが実効あるものとなるよう相互間の連携強化を図っております。また、当社は監査役会制度を採用しており、監査役会は監査役3名（2名が社外監査役）で構成されております。常勤監査役山本 保氏は、当社の総務部で平成16年7月から平成27年1月まで在籍し、通算10年6か月にわたり企業法務及びコンプライアンスに関する実務経験を重ねております。また、社外監査役中野正信氏は公認会計士、同大田口 宏氏は弁護士であり、3名とも申し分のない知見を有しております。

会計監査の状況

当事業年度に業務を執行した公認会計士の氏名、所属監査法人及び補助者の構成は、以下のとおりであります。

有限責任監査法人トーマツ

(イ) 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 後藤 紳太郎
指定有限責任社員 業務執行社員 秦 一二三

(ロ) 会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 10名 その他 3名

(注) 継続監査年数については、7年以内であるため、記載を省略しております。

社外監査役

イ. 会社と社外監査役の人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係の概要

当社の社外監査役は2名を選任しております。

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありません。その選任に際しては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを個別に判断しております。

社外監査役中野正信氏は、中野正信公認会計士事務所所長であり、エスフーズ株式会社及びフジテック株式会社の社外監査役であります。当社とエスフーズ株式会社とは、肉加工品の仕入れに関する取引関係があります。また、フジテック株式会社とは、昇降機の据付工事並びに保守点検業務を委託する取引関係があります。なお、社外監査役中野正信氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届けております。

社外監査役大田口 宏氏は大雪法律事務所所長であり、株式会社リアルビジョンの社外監査役であります。大雪法律事務所は、当社と法律顧問契約を締結しております。また、当社と株式会社リアルビジョンとは、特別な関係はありません。親会社はなく、また、取締役を受け入れるべき資本関係や株式の持ち合い等親密企業も存在しない全くの独立した企業体である当社では、監査役2名を社外監査役とすることで経営監視機能は十分に機能するとの考えから、社外取締役を選任しておりません。

ロ. 責任限定契約の内容の概要

社外監査役2名と当社の間では、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、いずれも3,600千円又は法令が定める額のいずれか高い額としております。

役員報酬

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	ストック オプション	
取締役	65,051	65,051	-	-	8
監査役 (社外監査役を除く)	-	-	-	-	-
社外監査役	6,360	6,360	-	-	3

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役及び監査役の報酬の額は、取締役全員及び監査役全員の報酬総額の最高限度額を株主総会の決議により決定し、各取締役の報酬額は、取締役会の授権を受けた代表取締役が、業績貢献や業務執行状況を勘案して決定し、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況
該当事項はありません。

取締役の定数
当社の取締役は10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件
当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

取締役会にて決議できる株主総会決議事項
イ. 当社は、経済情勢の変化に対応して、財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。
ロ. 当社は、平成25年1月29日開催の定時株主総会において、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めのある場合を除き、取締役会の決議により定めることができる旨の定款変更決議を行っております。
ハ. 当社は、取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮することができるよう、会社法第426条第1項の規定に基づき、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の損害賠償責任を法令の限度において、取締役会の決議をもって免除できる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件
当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	21,000	-	21,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	21,000	-	21,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査日数、当社の規模・事業の特性等の要素を勘案して適切に決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年11月1日から平成26年10月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年11月1日から平成26年10月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年11月1日から平成26年10月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成25年11月1日から平成26年10月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しており、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当連結会計年度 (平成26年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,846,862	7,168,447
原材料及び貯蔵品	466,822	638,957
繰延税金資産	118,381	162,101
その他	702,601	818,957
流動資産合計	7,134,667	8,788,463
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,882,421	23,233,044
減価償却累計額	9,146,717	10,440,184
建物及び構築物(純額)	12,735,704	12,792,859
機械装置及び運搬具	2,578,639	2,792,822
減価償却累計額	1,820,650	2,035,694
機械装置及び運搬具(純額)	757,988	757,127
土地	2,154,606	2,329,495
リース資産	6,646,128	7,654,354
減価償却累計額	3,033,536	4,272,556
リース資産(純額)	3,612,591	3,381,798
その他		
その他(純額)	368,493	363,759
有形固定資産合計	19,629,385	19,625,040
無形固定資産		
リース資産	1,103,693	803,701
その他	154,342	117,633
無形固定資産合計	1,258,035	921,334
投資その他の資産		
長期貸付金	3,400,171	3,408,108
繰延税金資産	461,514	444,733
差入保証金	3,707,034	3,824,685
その他	888,220	1,127,346
投資その他の資産合計	8,456,940	8,804,873
固定資産合計	29,344,361	29,351,248
資産合計	36,479,029	38,139,711

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当連結会計年度 (平成26年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,217,875	3,750,590
1年内返済予定の長期借入金	200,000	200,000
リース債務	1,673,954	1,715,520
未払金	3,021,777	3,313,555
未払法人税等	1,014,630	1,309,222
その他	558,568	1,329,024
流動負債合計	9,686,806	11,617,914
固定負債		
長期借入金	400,000	200,000
リース債務	3,135,242	2,544,262
資産除去債務	1,153,668	1,225,492
その他	283,136	258,616
固定負債合計	4,972,048	4,228,371
負債合計	14,658,854	15,846,285
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005,329	2,005,329
資本剰余金	2,334,384	2,334,384
利益剰余金	17,440,725	20,233,092
自己株式	185	2,353,421
株主資本合計	21,780,253	22,219,385
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	39,921	74,041
その他の包括利益累計額合計	39,921	74,041
純資産合計	21,820,174	22,293,426
負債純資産合計	36,479,029	38,139,711

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
売上高	88,144,847	96,938,352
売上原価	2 39,915,511	2 44,352,582
売上総利益	48,229,336	52,585,770
販売費及び一般管理費	1, 2 44,233,761	1, 2 47,770,745
営業利益	3,995,574	4,815,025
営業外収益		
受取利息	65,065	64,200
為替差益	132,469	56,477
受取手数料	249,325	261,339
物販収入	224,092	123,982
その他	25,982	34,592
営業外収益合計	696,935	540,593
営業外費用		
支払利息	76,705	70,319
支払手数料	-	20,051
物販原価	143,790	61,960
その他	19,755	27,895
営業外費用合計	240,251	180,226
経常利益	4,452,258	5,175,391
特別利益		
固定資産売却益	-	3 1,160
特別利益合計	-	1,160
特別損失		
固定資産除却損	4 20,057	4 15,717
店舗閉鎖損失	5 70,561	5 26,078
減損損失	6 58,219	6 32,213
特別損失合計	148,838	74,008
税金等調整前当期純利益	4,303,419	5,102,542
法人税、住民税及び事業税	1,839,072	2,088,081
法人税等調整額	38,192	26,302
法人税等合計	1,800,879	2,061,778
少数株主損益調整前当期純利益	2,502,539	3,040,764
当期純利益	2,502,539	3,040,764

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,502,539	3,040,764
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	44,418	34,119
その他の包括利益合計	1 44,418	1 34,119
包括利益	2,546,958	3,074,883
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,546,958	3,074,883
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,005,329	2,334,384	15,186,582	29	19,526,267
当期変動額					
剰余金の配当			248,397		248,397
当期純利益			2,502,539		2,502,539
自己株式の取得				156	156
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	2,254,142	156	2,253,985
当期末残高	2,005,329	2,334,384	17,440,725	185	21,780,253

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	4,496	4,496	19,521,770
当期変動額			
剰余金の配当			248,397
当期純利益			2,502,539
自己株式の取得			156
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	44,418	44,418	44,418
当期変動額合計	44,418	44,418	2,298,404
当期末残高	39,921	39,921	21,820,174

当連結会計年度（自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,005,329	2,334,384	17,440,725	185	21,780,253
当期変動額					
剰余金の配当			248,396		248,396
当期純利益			3,040,764		3,040,764
自己株式の取得				2,353,236	2,353,236
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	2,792,367	2,353,236	439,131
当期末残高	2,005,329	2,334,384	20,233,092	2,353,421	22,219,385

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	39,921	39,921	21,820,174
当期変動額			
剰余金の配当			248,396
当期純利益			3,040,764
自己株式の取得			2,353,236
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	34,119	34,119	34,119
当期変動額合計	34,119	34,119	473,251
当期末残高	74,041	74,041	22,293,426

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,303,419	5,102,542
減価償却費	3,104,045	3,446,831
減損損失	58,219	32,213
受取利息	65,065	64,200
支払利息	76,705	70,319
たな卸資産の増減額(は増加)	129,249	171,266
仕入債務の増減額(は減少)	339,185	530,922
未払消費税等の増減額(は減少)	60,361	801,384
その他	704,084	642,302
小計	8,330,985	10,391,049
利息の受取額	123	180
利息の支払額	76,529	70,165
法人税等の支払額	2,075,704	1,877,087
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,178,875	8,443,977
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,733,839	1,838,002
有形固定資産の売却による収入	-	2,208
無形固定資産の取得による支出	45,193	14,532
関係会社株式の取得による支出	-	285,600
貸付けによる支出	355,378	283,108
差入保証金の差入による支出	161,629	148,143
差入保証金の回収による収入	8,323	38,434
その他	142,256	66,215
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,429,974	2,594,959
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	400,000	200,000
自己株式の取得による支出	156	2,353,236
リース債務の返済による支出	1,432,675	1,790,343
配当金の支払額	248,725	248,792
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,081,557	4,592,371
現金及び現金同等物に係る換算差額	80,869	64,938
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	748,212	1,321,585
現金及び現金同等物の期首残高	4,972,339	5,846,862
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	126,309	-
現金及び現金同等物の期末残高	1 5,846,862	1 7,168,447

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 1社

連結子会社の名称 Kula Sushi USA, Inc.

(2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称 台湾國際藏壽司股份有限公司

連結の範囲から除いた理由 総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表への影響が軽微なためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社

主要な会社等の名称 台湾國際藏壽司股份有限公司

持分法を適用しない理由 当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも持分法の対象から除いても連結財務諸表への影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社であるKula Sushi USA, Inc.の決算日は8月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同社の事業年度(自平成25年9月1日至平成26年8月31日まで)の財務諸表を使用しております。

ただし、平成26年9月1日から連結会計年度末日である平成26年10月31日に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産

原材料

主として月次総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品

最終仕入原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社は主として定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)は定額法)を採用し、在外連結子会社は主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10年～47年

機械装置及び運搬具 5年～13年

その他 2年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産(所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産)

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年10月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

長期前払費用

定額法を採用しております。ただし、食器等、新規出店に際し一括して購入し、長期にわたり使用する物品については、償却年数4年、残存価額を零とする級数法を採用しております。

(3) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、為替差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(連結貸借対照表関係)

1 貸出コミットメント

当社においては、従来より運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行と貸出コミットメント契約(15億円)を締結しております。

また、不測の事態に備え、流動性を確保するためのバックアップラインとして、取引銀行2行と長期コミットメントライン契約(20億円)を締結しております。

連結会計年度末における貸出コミットメントにかかる借入未実行残高等は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当連結会計年度 (平成26年10月31日)
貸出コミットメントの総額	3,500,000千円	3,500,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	3,500,000	3,500,000

2 非連結子会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当連結会計年度 (平成26年10月31日)
投資その他の資産のその他 (関係会社株式)	- 千円	285,600千円

3 金融商品に関する会計基準を適用し、現在価値に割り引いた建設協力金であります。

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
給与手当	21,791,505千円	23,672,127千円
賃借料	6,221,086	6,388,784

2 研究開発費の総額

一般管理費及び売上原価に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
	1,032千円	2,109千円

3 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
機械装置及び運搬具	- 千円	1,160千円

4 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
建物及び構築物	403千円	515千円
機械装置及び運搬具	1,336	991
工具、器具及び備品	1,460	1,672
解体撤去費用	16,857	10,795
その他	-	1,740
計	20,057	15,717

5 店舗閉鎖損失の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
建物及び構築物	51,611千円	22,994千円
機械装置及び運搬具	102	1,694
工具、器具及び備品	16,066	807
無形固定資産	769	-
その他	2,011	581
計	70,561	26,078

6 減損損失

前連結会計年度(自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)

減損損失については、重要性が乏しいため連結財務諸表規則第63条の2の規定に基づき記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)

減損損失については、重要性が乏しいため連結財務諸表規則第63条の2の規定に基づき記載を省略しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
為替換算調整勘定：		
当期発生額	44,418	34,119
その他の包括利益合計	44,418	34,119

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	20,699,800	-	-	20,699,800
合計	20,699,800	-	-	20,699,800
自己株式				
普通株式(注)	26	94	-	120
合計	26	94	-	120

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加94株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年1月29日 定時株主総会	普通株式	248,397	12	平成24年10月31日	平成25年1月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年12月17日 取締役会	普通株式	248,396	利益剰余金	12	平成25年10月31日	平成26年1月30日

当連結会計年度(自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	20,699,800	-	-	20,699,800
合計	20,699,800	-	-	20,699,800
自己株式				
普通株式(注)	120	956,600	-	956,720
合計	120	956,600	-	956,720

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加956,600株は、平成26年8月29日開催の取締役会決議に基づく、自己株式の公開買付けによる取得であります。

(取得の内容)

1. 公開買付期間 平成26年9月1日から平成26年9月30日まで
2. 取得した株式の総数 956,600株
3. 買付価格 普通株式1株につき2,460円
4. 取得価額の総額 2,353,236千円

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年12月17日 取締役会	普通株式	248,396	12	平成25年10月31日	平成26年1月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年12月16日 取締役会	普通株式	236,916	利益剰余金	12	平成26年10月31日	平成27年1月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
現金及び預金勘定	5,846,862千円	7,168,447千円
現金及び現金同等物	5,846,862	7,168,447

2 同一相手先に対する店舗地代家賃の支払と貸付金(利息含む)の回収は相殺されております。

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

店舗設備、生産設備等における機械装置及び運搬具並びにその他であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年10月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度(平成25年10月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	減損損失累計額 相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	1,329,339	1,100,008	-	229,330
その他	1,031,034	845,744	20,586	164,702
ソフトウェア	445,900	367,006	-	78,893
合計	2,806,274	2,312,760	20,586	472,926

(単位：千円)

	当連結会計年度(平成26年10月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	減損損失累計額 相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	784,251	726,357	1,854	56,039
その他	667,312	600,317	20,586	46,407
ソフトウェア	305,592	281,307	251	24,033
合計	1,757,156	1,607,983	22,692	126,481

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当連結会計年度 (平成26年10月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	355,947	136,883
1年超	150,287	-
合計	506,235	136,883
リース資産減損勘定の期末残高	7,747	3,622

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成24年11月1日 至平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自平成25年11月1日 至平成26年10月31日)
支払リース料	525,532	356,157
リース資産減損勘定の取崩額	4,951	6,231
減価償却費相当額	482,887	327,101
支払利息相当額	18,521	7,941
減損損失	-	2,105

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達については主として銀行等金融機関からの借入により行う方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

長期貸付金及び差入保証金は、貸主の信用リスクに晒されております。当該リスクについては、相手先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況の悪化等の早期把握によりリスク軽減を図っております。

買掛金、未払金及び未払法人税等は2ヶ月以内の支払期日となっており、経理部が管理する体制をとっております。

長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。当該調達にあたっては、社内規程に従い、経理部が起案し、必要な承認を得て実行しております。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、固定金利によっております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理するとともに、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行と貸出コミットメント契約を締結しております。また、不測の事態に備え、流動性を確保するためのバックアップラインとして、取引銀行2行と長期コミットメントライン契約を締結しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価は市場価格がないため、合理的に算定された価額によっております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
前連結会計年度（平成25年10月31日）

	連結貸借対照表計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	5,846,862	5,846,862	-
(2) 長期貸付金	3,400,171	3,400,171	-
(3) 差入保証金	3,707,034	3,480,816	226,217
資産計	12,954,068	12,727,850	226,217
(1) 買掛金	3,217,875	3,217,875	-
(2) 未払金	3,021,777	3,021,777	-
(3) 未払法人税等	1,014,630	1,014,630	-
(4) 長期借入金(1)	600,000	601,013	1,013
(5) リース債務(2)	4,809,196	4,828,399	19,202
負債計	12,663,480	12,683,696	20,215

- (1) 1年以内に返済予定の長期借入金を含んでおります。
(2) 1年以内に返済予定のリース債務を含んでおります。

当連結会計年度（平成26年10月31日）

	連結貸借対照表計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	7,168,447	7,168,447	-
(2) 長期貸付金	3,408,108	3,408,108	-
(3) 差入保証金	3,824,685	3,633,643	191,042
資産計	14,401,241	14,210,199	191,042
(1) 買掛金	3,750,590	3,750,590	-
(2) 未払金	3,313,555	3,313,555	-
(3) 未払法人税等	1,309,222	1,309,222	-
(4) 長期借入金(1)	400,000	400,745	745
(5) リース債務(2)	4,259,782	4,271,679	11,897
負債計	13,033,151	13,045,794	12,642

- (1) 1年以内に返済予定の長期借入金を含んでおります。
(2) 1年以内に返済予定のリース債務を含んでおります。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期貸付金

長期貸付金は建設協力金であり、その時価については信用リスクが僅少であるため、回収予定額を契約期間に対する国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、「金融商品会計に関する実務指針」に基づき、上記による算定額を連結貸借対照表に計上しているため、時価は帳簿価額と一致しております。

(3) 差入保証金

差入保証金の時価は、信用リスクが僅少であるため、回収予定額を契約期間に対応する国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金、(5) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入またはリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成25年10月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,846,862	-	-	-
合計	5,846,862	-	-	-

(注) 長期貸付金及び差入保証金は回収日が確定していないため、上表には記載しておりません。

当連結会計年度(平成26年10月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,168,447	-	-	-
合計	7,168,447	-	-	-

(注) 長期貸付金及び差入保証金は回収日が確定していないため、上表には記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成25年10月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	200,000	200,000	200,000	-	-	-
リース債務	1,673,954	1,474,306	939,297	523,676	197,961	-
合計	1,873,954	1,674,306	1,139,297	523,676	197,961	-

当連結会計年度(平成26年10月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	200,000	200,000	-	-	-	-
リース債務	1,715,520	1,193,641	768,739	444,310	137,570	-
合計	1,915,520	1,393,641	768,739	444,310	137,570	-

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当連結会計年度 (平成26年10月31日)
繰延税金資産		
資産除去債務	409,938千円	435,434千円
減損損失	230,655	199,173
長期貸付金	168,731	153,627
未払事業税	95,025	104,425
繰越欠損金	65,152	54,639
減価償却費	40,607	38,078
一括償却資産	43,649	38,268
その他	40,033	70,601
繰延税金資産小計	1,093,793	1,094,248
評価性引当額	60,368	48,759
繰延税金資産合計	1,033,425	1,045,489
繰延税金負債		
長期前払費用	223,029	212,632
資産除去債務に対応する除去費用	225,668	221,898
固定資産圧縮積立金	4,832	4,123
繰延税金負債合計	453,530	438,654
繰延税金資産の純額	579,895	606,834

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当連結会計年度 (平成26年10月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	0.3
住民税均等割	3.3	2.9
評価性引当額の増減額	0.2	0.3
その他	0.4	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.8	40.4

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、平成26年11月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については、繰延税金資産を計算する法定実効税率が38.01%から35.64%に変更となります。

なお、当該変更が繰延税金資産及び法人税等調整額に与える影響は軽微であります。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

店舗用の建物の事業用定期借地権及び定期建物賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から8年から30年と見積り、割引率は0.502%～3.610%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
期首残高	1,052,311千円	1,153,668千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	85,584	52,664
時の経過による調整額	17,625	18,583
資産除去債務の履行による減少額	3,921	-
その他増減額(は減少)	2,069	575
期末残高	1,153,668	1,225,492

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高は、重要性が乏しいため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産は、重要性が乏しいため記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高は、重要性が乏しいため記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産は、重要性が乏しいため記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社

前連結会計年度(自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
非連結子会社	台湾國際藏壽司股份有限公司	台湾台北市	80,000千NT\$	台湾における回転すし店舗の展開	(所有) 直接100.0	役員の兼任	出資の引受(注)	285,600	-	-

(注) 台湾國際藏壽司股份有限公司との取引は、同社設立のための出資を引き受けたものであります。

(イ) 連結財務諸表提出会社の主要株主及び役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等

前連結会計年度(自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	株式会社ウォルナットコーポレーション	堺市中区	10,000	不動産の賃貸、株式の所有及び管理	(被所有) 直接 26.59	公開買付けによる自己株式の取得役員の兼任	自己株式の取得(注)	2,337,000	-	-

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

株式会社ウォルナットコーポレーションとの取引は、平成26年8月29日開催の取締役会決議に基づき、公開買付けの方法により当社普通株式950,000株を1株当たり2,460円で取得したものであります。

なお、1株当たりの買付価格は、当該取締役会決議の前営業日までの直前3ヶ月間の東京証券取引所市場第一部における当社普通株式の終値の単純平均値に対して、一定のディスカウント率を乗じて決定しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
1株当たり純資産額	1,054.13円	1,129.18円
1株当たり当期純利益金額	120.90円	146.99円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(千円)	2,502,539	3,040,764
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	2,502,539	3,040,764
期中平均株式数(株)	20,699,744	20,686,576

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	200,000	200,000	0.61	-
1年以内に返済予定のリース債務	1,673,954	1,715,520	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	400,000	200,000	0.61	平成27年～28年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,135,242	2,544,262	-	平成27年～31年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	5,409,196	4,659,782	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	200,000	-	-	-
リース債務	1,193,641	768,739	444,310	137,570

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	23,390,661	47,196,255	72,097,938	96,938,352
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	1,250,125	2,912,461	4,186,666	5,102,542
四半期(当期)純利益金額 (千円)	743,083	1,729,808	2,484,631	3,040,764
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	35.90	83.57	120.03	146.99

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	35.90	47.67	36.47	26.95

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年10月31日)	当事業年度 (平成26年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,696,817	6,938,579
原材料及び貯蔵品	451,247	621,724
前払費用	588,175	634,678
繰延税金資産	108,466	146,909
その他	98,643	3 159,460
流動資産合計	6,943,351	8,501,353
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,538,917	11,640,706
構築物	819,098	778,651
機械及び装置	752,106	752,683
工具、器具及び備品	230,096	179,050
土地	2,154,606	2,329,495
リース資産	3,612,591	3,381,798
建設仮勘定	77,402	136,999
有形固定資産合計	19,184,820	19,199,385
無形固定資産		
ソフトウェア	123,180	89,283
電話加入権	8,271	8,271
リース資産	1,103,693	803,701
無形固定資産合計	1,235,144	901,255
投資その他の資産		
関係会社株式	818,153	1,103,753
長期貸付金	2 3,400,171	2 3,408,108
長期前払費用	887,000	840,818
繰延税金資産	461,514	444,733
差入保証金	3,671,735	3,785,458
その他	484	485
投資その他の資産合計	9,239,061	9,583,358
固定資産合計	29,659,026	29,683,999
資産合計	36,602,378	38,185,353

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年10月31日)	当事業年度 (平成26年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,185,113	3,716,005
1年内返済予定の長期借入金	200,000	200,000
リース債務	1,673,954	1,715,520
未払金	2,985,541	3,284,656
未払法人税等	1,014,630	1,309,222
未払消費税等	316,900	1,118,284
預り金	35,014	37,805
前受収益	23,894	14,777
設備関係未払金	143,509	104,954
その他	30,571	42,174
流動負債合計	9,609,130	11,543,402
固定負債		
長期借入金	400,000	200,000
リース債務	3,135,242	2,544,262
資産除去債務	1,143,249	1,214,213
その他	283,136	258,616
固定負債合計	4,961,628	4,217,092
負債合計	14,570,759	15,760,494
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005,329	2,005,329
資本剰余金		
資本準備金	2,334,384	2,334,384
資本剰余金合計	2,334,384	2,334,384
利益剰余金		
利益準備金	83,675	83,675
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	8,507	7,446
別途積立金	14,840,000	17,240,000
繰越利益剰余金	2,759,908	3,107,445
利益剰余金合計	17,692,090	20,438,566
自己株式	185	2,353,421
株主資本合計	22,031,618	22,424,859
純資産合計	22,031,618	22,424,859
負債純資産合計	36,602,378	38,185,353

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)	当事業年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
売上高	87,171,703	95,635,750
売上原価	39,556,439	43,878,419
売上総利益	47,615,264	51,757,330
販売費及び一般管理費		
給与及び手当	21,496,971	23,301,726
賃借料	6,136,763	6,294,554
減価償却費	2,950,234	3,302,959
その他	13,026,537	14,088,307
販売費及び一般管理費合計	43,610,506	46,987,548
営業利益	4,004,757	4,769,782
営業外収益		
受取利息	66,651	64,067
為替差益	133,221	56,477
受取手数料	249,325	261,339
物販収入	224,092	123,982
雑収入	25,747	34,486
営業外収益合計	699,037	540,353
営業外費用		
支払利息	76,705	70,319
支払手数料	-	20,051
物販原価	143,790	61,960
雑損失	19,583	22,645
営業外費用合計	240,079	174,977
経常利益	4,463,715	5,135,158
特別損失		
固定資産除却損	1 20,057	1 15,657
店舗閉鎖損失	2 3,994	2 26,078
減損損失	58,219	32,213
特別損失合計	82,271	73,948
税引前当期純利益	4,381,443	5,061,209
法人税、住民税及び事業税	1,839,000	2,088,000
法人税等調整額	29,012	21,662
法人税等合計	1,809,987	2,066,337
当期純利益	2,571,456	2,994,872

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)		当事業年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	2	36,113,376	91.3	40,225,537	91.7
労務費		1,357,141	3.4	1,463,640	3.3
経費		2,085,920	5.3	2,189,241	5.0
売上原価		39,556,439	100.0	43,878,419	100.0

(注) 1. 当社は事業の性質上、製品・仕掛品在庫はありませんので、材料費、労務費、経費の全額を売上高に対応するものとして、売上原価としております。

2. 経費の主な内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)		当事業年度 (自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)
賃借料	32,642千円	賃借料	29,781千円
消耗品費	195,208千円	消耗品費	209,430千円
水道光熱費	120,137千円	水道光熱費	134,021千円
減価償却費	95,983千円	減価償却費	87,065千円
運賃	1,486,735千円	運賃	1,566,835千円

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,005,329	2,334,384	2,334,384	83,675	9,138	13,040,000	2,236,217	15,369,030
当期変動額								
固定資産圧縮積立金の取崩					631		631	-
税率変更による積立金の調整額								-
別途積立金の積立						1,800,000	1,800,000	-
剰余金の配当							248,397	248,397
当期純利益							2,571,456	2,571,456
自己株式の取得								
当期変動額合計	-	-	-	-	631	1,800,000	523,691	2,323,059
当期末残高	2,005,329	2,334,384	2,334,384	83,675	8,507	14,840,000	2,759,908	17,692,090

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	29	19,708,716	19,708,716
当期変動額			
固定資産圧縮積立金の取崩		-	-
税率変更による積立金の調整額		-	-
別途積立金の積立		-	-
剰余金の配当		248,397	248,397
当期純利益		2,571,456	2,571,456
自己株式の取得	156	156	156
当期変動額合計	156	2,322,902	2,322,902
当期末残高	185	22,031,618	22,031,618

当事業年度（自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					固定資産圧 縮積立金	別途積立金	繰越利益剰 余金	
当期首残高	2,005,329	2,334,384	2,334,384	83,675	8,507	14,840,000	2,759,908	17,692,090
当期変動額								
固定資産圧縮積立金の 取崩					1,334		1,334	-
税率変更による積立金 の調整額					274		274	-
別途積立金の積立						2,400,000	2,400,000	-
剰余金の配当							248,396	248,396
当期純利益							2,994,872	2,994,872
自己株式の取得								
当期変動額合計	-	-	-	-	1,060	2,400,000	347,536	2,746,476
当期末残高	2,005,329	2,334,384	2,334,384	83,675	7,446	17,240,000	3,107,445	20,438,566

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	185	22,031,618	22,031,618
当期変動額			
固定資産圧縮積立金の 取崩		-	-
税率変更による積立金 の調整額		-	-
別途積立金の積立		-	-
剰余金の配当		248,396	248,396
当期純利益		2,994,872	2,994,872
自己株式の取得	2,353,236	2,353,236	2,353,236
当期変動額合計	2,353,236	393,240	393,240
当期末残高	2,353,421	22,424,859	22,424,859

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

関係会社株式...移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料...月次総平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品...最終仕入原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10年～47年

構築物 10年～20年

機械及び装置 5年～13年

工具、器具及び備品 2年～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産(所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産)

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年10月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。但し、食器等、新規出店に際し一括して購入し、長期にわたり使用する物品については、償却年数4年、残存価額ゼロとする級数法を採用しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 貸出コミットメント

当社においては、従来より運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行と貸出コミットメント契約(15億円)を締結しております。

また、不測の事態に備え、流動性を確保するためのバックアップラインとして、取引銀行2行と長期コミットメントライン契約(20億円)を締結しております。

事業年度末における貸出コミットメントにかかる借入未実行残高等は以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年10月31日)	当事業年度 (平成26年10月31日)
貸出コミットメントの総額	3,500,000千円	3,500,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	3,500,000	3,500,000

- 2 金融商品に関する会計基準を適用し、現在価値に割り引いた建設協力金であります。

- 3 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務は以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年10月31日)	当事業年度 (平成26年10月31日)
短期金銭債権	598千円	4,242千円
短期金銭債務	-	130

(損益計算書関係)

- 1 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年11月1日 至平成25年10月31日)	当事業年度 (自平成25年11月1日 至平成26年10月31日)
構築物	403千円	515千円
機械及び装置	1,336	991
工具、器具及び備品	1,460	1,613
解体撤去費用	16,857	10,795
その他	-	1,740
計	20,057	15,657

- 2 店舗閉鎖損失の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年11月1日 至平成25年10月31日)	当事業年度 (自平成25年11月1日 至平成26年10月31日)
建物	1,915千円	22,263千円
構築物	116	1,312
機械及び装置	102	1,694
工具、器具及び備品	370	807
その他	1,490	-
計	3,994	26,078

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式1,103,753千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式818,153千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年10月31日)	当事業年度 (平成26年10月31日)
繰延税金資産		
資産除去債務	407,454千円	432,745千円
減損損失	230,655	199,173
長期貸付金	168,731	153,627
未払事業税	95,025	104,425
減価償却費	35,850	29,393
一括償却資産	43,649	38,268
支払手数料	26,250	27,587
未払事業所税	10,819	10,701
その他	2,963	32,312
繰延税金資産合計	1,021,399	1,028,235
繰延税金負債		
長期前払費用	223,029	212,632
資産除去債務に対応する除去費用	223,557	219,836
固定資産圧縮積立金	4,832	4,123
繰延税金負債合計	451,418	436,592
繰延税金資産の純額	569,980	591,643

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年10月31日)	当事業年度 (平成26年10月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	0.3
住民税均等割	3.3	2.9
その他	0.3	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.3	40.8

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、平成26年11月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については、繰延税金資産を計算する法定実効税率が38.01%から35.64%に変更となります。

なお、当該変更が繰延税金資産及び法人税等調整額に与える影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却累計額 (千円)
有形固定資産						
建物	11,538,917	1,207,963	22,492	1,083,682	11,640,706	8,888,663
構築物	819,098	139,488	1,827	178,106	778,651	1,472,603
機械及び装置	752,106	226,519	2,686	223,255	752,683	2,032,082
工具、器具及び備品	230,096	31,841	2,421	80,466	179,050	1,621,300
土地	2,154,606	174,888	-	-	2,329,495	-
リース資産	3,612,591	1,139,063	16,690 (14,840)	1,353,167	3,381,798	4,272,556
建設仮勘定	77,402	2,167,633	2,108,036	-	136,999	-
有形固定資産計	19,184,820	5,087,399	2,154,156 (14,840)	2,918,678	19,199,385	18,287,205
無形固定資産						
ソフトウェア	123,180	28,989	14,457	48,429	89,283	329,436
電話加入権	8,271	-	-	-	8,271	-
リース資産	1,103,693	118,932	1,258 (579)	417,665	803,701	1,189,931
無形固定資産計	1,235,144	147,921	15,715 (579)	466,095	901,255	1,519,367

(注) 1. 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

建物

新規出店1,026,953千円、既存店造作121,602千円、
資産除去債務に対応する資産52,664千円であります。

機械及び装置

新規出店115,170千円、既存店分104,908千円であります。

リース資産(有形固定資産)

新規出店483,256千円、既存店分634,152千円であります。

建設仮勘定

新規出店のための店舗工事代金1,490,810千円あります。

リース資産(無形固定資産)

新規出店33,889千円、既存店分85,042千円あります。

2. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	11月1日から10月31日まで
定時株主総会	1月中
基準日	10月31日
剰余金の配当の基準日	4月30日 10月31日 上記のほか、基準日を定めて剰余金の配当をすることができる。
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告(注)1
株主に対する特典	年1回、4月末日現在の株主名簿に記録された株主に対し、100株以上2,500円相当、200株以上5,000円相当、500株以上10,000円相当 200株以上株主には希望により自社商品詰合せと交換の取り扱いを行います。

(注) 1. 事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL <http://www.kura-corporo.co.jp/>

2. 特別口座に記録されている株式の買取については、三菱UFJ信託銀行株式会社が取り扱いを行います。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第18期)(自平成24年11月1日至平成25年10月31日)平成26年1月30日近畿財務局長に提出。

(2)内部統制報告書及びその添付書類

平成26年1月30日近畿財務局長に提出。

(3)四半期報告書及び確認書

(第19期第1四半期)(自平成25年11月1日至平成26年1月31日)平成26年3月13日近畿財務局長に提出。

(第19期第2四半期)(自平成26年2月1日至平成26年4月30日)平成26年6月13日近畿財務局長に提出。

(第19期第3四半期)(自平成26年5月1日至平成26年7月31日)平成26年9月12日近畿財務局長に提出。

(4)臨時報告書

平成26年1月31日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。

(5)自己株券買付状況報告書

報告期間(自平成26年8月1日至平成26年8月31日)平成26年9月9日近畿財務局長に提出。

報告期間(自平成26年9月1日至平成26年9月30日)平成26年10月14日近畿財務局長に提出。

報告期間(自平成26年10月1日至平成26年10月31日)平成26年11月11日近畿財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年 1月30日

株式会社くらコーポレーション

取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 紳太郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秦 一三 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社くらコーポレーションの平成25年11月1日から平成26年10月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社くらコーポレーション及び連結子会社の平成26年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社くらコーポレーションの平成26年10月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社くらコーポレーションが平成26年10月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年 1月30日

株式会社くらコーポレーション

取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 紳太郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秦 一三 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社くらコーポレーションの平成25年11月1日から平成26年10月31日までの第19期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社くらコーポレーションの平成26年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。